

# 神楽笛演奏者



安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組み挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

## 舞い手、囃子、観客が

## 一体となる瞬間が大好きです

吉田高等学校3年

田中 たなか

瑠実さん るみ

将来の夢は  
看護師になること！



小学5年生の時から愛用している神楽笛。廿日市市湯来町の笛職人が手作りましたものです  
クラスの友達や部活の仲間とワイワイ過ごす学校が大好き。青春を謳歌しています  
“川根柚子のしずく”がお気に入り。「風呂上がりの一杯がたまりません」と田中さん

神楽笛の音色に魅了され  
憧れの人に近づきたい一心で猛練習

田中さんは、吉田高等学校神楽部と地元「横田神楽団」に所属し、神楽漬けの毎日を送っている青春真つただ中の女子高生です。田中さんが神楽を始めたのは5歳の時のこと。祖父が神楽団で大太鼓を担当していたこともあり、神楽を始めることはとても自然なことでした。それから舞や楽を一通り経験し、神楽笛に出合ったのは小学校4年生の時。団で神楽笛の後継者に指名されたのがきっかけです。「期待に応えたいという気持ちと不安でいっぱいでした」と当時を振り返ります。演奏者によってその音色を変え、多彩な音を奏でる神楽笛。「中学校2年生の時に、団で活躍する神楽笛演奏者の音を間近で聞いて『この人みたいに上手になりたい!』と思いました。指を凄く動かしているのに、音はとても滑らか。難しさを感じさせない、流れるような音に感動しました」と田中さん。楽譜はなく、伝承する方法は見て聴いて覚えるしかありません。「それからは、毎日その人が演奏している動画を見たり、練習や本番で一緒になった時には常にじーっと見つめていました(笑)」。

いよいよ7月29日(土)、30日(日)には、これまでの集大成ともいえる「神楽甲子園」が開幕。「一番印象に残る神楽を見せたい」と練習にも熱が入ります。当日は、会場となる神楽門前湯治村で吉田高等学校に熱いエールを贈りましょう!

# 違う文化から 日本を考える

Vol.37  
まだまだです

文/  
県立広島大学  
上水流久彦准教授



イラスト/  
ロナルド・シュewart准教授



多文化共生で埼玉を今年の3月に訪問してきました。大きな収穫が二つありました。ひとつは外国語で書かれた育児の手引書です。さいたま市が発行しており、英語、中国語、韓国語がありました。日本語版は「子育て応援ブック」といいます。子育てに必要な情報がまとめて書いてあるのです。子どもを育てるのは不安です。ましてや海外となると、何かと心配が多いです。その冊子をあけてみると、日本語に訳すと「赤ちゃんが生まれるまで」、「赤ちゃんが生まれてから」、「手当・助成金など」、「子どもの健康」、「幼稚園と保育園を探す」、「小・中学生になったら」、「ひとり親家庭のために」などの項目が並んでいます。子どもを育てる親にとっては心強いもの

だなと思えました。これまで様々な自治体の多文化共生を見てきましたが、子育て情報が外国語でまとめて書いてある冊子は初めてみました。

もうひとつは、ポルトガル語とやさしい日本語で書いてある警察署の情報紙です。私が見たものには警察署管内で起こった犯罪や気を付けるべき情報が書いてありました。交通事故情報、振り込め詐欺、工事現場の盗難事件の多発などです。外国人の犯罪が多発し、不安だと感じる市民も多いと思います。比率で見るとそんなことはありません。そのような知識ぐらいは私も知っていました。でも、外国籍市民も治安や安全に関する情報が欲しいというところまで考え付きませんでした。犯罪

に気を付けるとどうやら日本語では言っているが、自分にはわからない。そんな状況はとても不安です。すよね。まだまだ勉強が足りないと思った埼玉での調査でした。



人権多文化  
共生推進課  
☎42-5630  
☎42-2130